

随筆

KMEX駐在記

川 合 寛

1. はじめに

私は2015年5月から2022年4月までKYB Mexico S.A de CV (以下KMEXDF) に駐在した。KMEXDFはメキシコ市場及び中南米全域（ブラジルを除く）を対象とした市販SAの販売拠点となっている。

個人的にもメキシコとの関わりは長く、学生時代のバックパッカーとその後のメキシコ駐在の経験が今回のKMEXDF駐在にリンクし、今につながっているという人生どこで縁や転機があるか分からないものである。

今回の7年間の駐在を経て身も心もすっかりメキシコ色に染まってしまったが、公私ともに大変貴重な経験をしたのでここに一部を紹介する。

2. メキシコ生活

まずメキシコ（メキシコ合衆国）は、人口1億3千万人（日本と同等）、総面積は196万平方キロメートル（日本の5倍）の北米と中南米の中間に位置する広大な合衆国である。そして駐在していたメキシコシティは国土のほぼ中心に位置し、人口約2158万人（東京の1.5倍）、逆に面積は1479平方キロメートル（東京の7割弱）と、その数字を見ただけで人口が密集し、商業の要所ということが容易に想像できると思う。

また、メキシコシティは標高約2,300メートルの高地にあり、メキシコ＝暑いイメージとは裏腹に年間を通じて平均気温25度、低湿度ということもあり日本の春、秋のような過ごしやすい快適な気候となっている。

北米と南米をつなぐメキシコの地理的優位性や平均年齢が29歳と若さ溢れる労働力にも恵まれていることから日系含む外資系企業の進出も多く、それに伴い世界各国の料理や文化を体験できることも魅力の1つである。

国民性も皆大らかで優しく陽気、アミーゴ精神から外国人も暖かく迎え入れてくれる非常に友好的な

人々である。

衣食住ここまで良いことばかりを書いたが、一方で苦勞した点としては交通渋滞と治安の問題が挙げられる。

一番頭が痛い問題は交通渋滞であった（写真1）。メキシコは公共交通機関もあるがスリや強盗といった事件も多く、基本的に車生活となっていた。自宅から事務所は歩いて15分の距離だが、朝夕においては車で1時間近く掛かることも度々あった。



写真1 通勤中の渋滞風景

以前の駐在者も触れていたが、メキシコの運転免許は試験がなく取得が容易なため、常に交通量が道路のキャパオーバーとなっており、道も複雑で一方通行が多いこともあり、町のどこかで渋滞があると市内全体が渋滞する。

車の車検もあるが維持メンテナンスはあくまで自己責任であり、道路では映画さながら故障しボンネットを開けて立ち往生する車が必ずおり、これも渋滞の主な要因となっている。

また、道路もこれだけの交通量に耐え切れず、所どころ穴が開いていたり、舗装も劣化したりとショックアブソーバーの交換需要が高いのも納得、肌で感じながら営業活動をした。

治安面も周知の通りで、ある程度事情に詳しくなるまでは安全な場所、時間などを良く調査した上で立ち振る舞う必要があり、駐在当初は苦勞した。

3. メキシコでの業務

駐在開始後3年間は購買業務を担当した。KMEXではメキシコ市場向けに在庫販売、その他中南米市場向けにはドロップシップメント（商品は工場から直送しKMEXから請求する3国間輸送）の商流を取っている。

一言に購買業務と言っても業務内容は多岐に渡り、市販SAの発注業務に始まり仕入先納期フォロー、適正在庫管理とオーダー充足率向上施策、および新規開発業務などに従事したが、未経験の業務ということもあり当初は非常に苦戦を強いられた。

需要を予測し在庫レベルと充足率のバランスを取りつつ発注数量を決定するという業務は、客先や営業情報から市場をモニターし、更に工場や他部署の情報、協業が不可欠である。

需要予測外れや、カヤバに起因する内的要因など以外にも国際情勢、港湾その他団体のデモや盗難、強盗など国特有の外的要因による納期遅延なども多々発生、在庫切れを起こしお客様から購買担当として呼び出されお叱り頂くこともしばしばあった。

しかしそのようなクレームやアドバイスを頂く中で、市場の生の声を聴き、お客様の要望に真摯に応えることで多くのことを学ぶと同時に信頼関係を築けたことは大きな収穫となった。

それ以外にも今回の駐在中に影響を受けたニュースやトピックとして2016年の米国新大統領就任に始まる対メキシコ移民政策、貿易政策やメキシコペソの暴落、更にコロナウイルス問題もあったが、メキシコは主要産業を止めることなく耐え凌ぎ、カヤバも着実に拡販を進めた。

また、今回の駐在中にKMEXDFから400キロ北西に位置するKMEXシラオ工場（写真2）でのSA生産立上プロジェクトにも参画し、倉庫の手配から物流検討、初期在庫完備など貴重な経験をしたことが、後に担当する中南米営業業務におけるモチベーションとなったのは言うまでもない。



写真2 KMEXシラオ工場

その後2018年から2022年は中南米営業マネージャーも兼任し中南米大陸15か国を縦横断し、各国の市場へ売り込みを行った。中南米ではブラジルを除いて南はアルゼンチンまで全ての国でスペイン語圏（一部英語圏のカリブ諸国除く）であり、スペイン、アフリカ、ローカルなど様々なルーツを持つ人々がそれぞれ異なった商習慣や国民性を持ち、交渉には苦労もあったがスペイン語を学びつつ客先と商談でき、多くの経験値を積むことができた。

その中で市販重点方策として、急速に勢力を拡大している中国製安価製品からカヤバシェアの維持拡大をするという命題があり、上位方針に則り各種施策を講じた。

現状は中南米大半の市場で安価製品が氾濫、市場価格を押し下げており、ここ数年拡販が頭打ちの状態が続いていた。これらに対抗するため、地産地消を推進する=Made in Mexicoの製品を競争力ある価格で市場投入すること、K'lassicブランド（低年式車向け廉価版製品）の拡販に注力した。

苦労した点としては、価格差の程度にもよるが中南米では未だに日本製を好む市場が大多数であり、海外製の製品には偏見、アレルギーがあり、メキシコ製拡販の障害となっていた。

これに対してはインセンティブとして10か国14社の得意先をKMEX工場へ工場見学に招待（写真3）、製造工程から材料、品質保証まで一貫して日本製と同一品質であることの説得や、販促キャンペーンなど続けてきたが当初は中々実を結ばず、歯がゆい思いをした。



写真3 KMEXシラオ工場見学ツアー（ペルー顧客）

その他、メキシコのF1用サーキットを貸し切り、全13か国のお客様を招待しての乗り比イベントKYB SAFETY DAYなども開催し、カヤバ品質を実際に体感、理解して頂けるよう粘り強く説得を続けた（写真4）。

しかし奇しくも2021年度はコロナ後の反動で需要急増による各メーカー在庫枯渇、物流混乱が発生し、

原産地問わずある分だけ購入したいという流れになり、結果的にメキシコ製の販売も軌道に乗せることができた。

廉価版製品K'lassicについても、2015年より販売を開始し、当初は合理化仕様や見た目イメージから客先も導入を躊躇していたが、価格の厳しいモデルを中心に品揃えを拡充し、販促活動を通じて販売エリアも徐々に広げ、2021年度ではKMEXの全テリトリーでの販売まで漕ぎ着けることができた。



写真4 KYB SAFETY DAY

4. メキシコ料理とお酒

前述の通りメキシコシティでは価格は高いものの各国の料理が充実し食事で困ることは少なく、メキシコ料理もユネスコの無形文化遺産に登録されるなど種類も豊富で日本人の口に合う非常に美味しいものであった。

主食は基本的にタコス（写真6）に代表されるトルティーヤというトウモロコシもしくは小麦粉の皮に肉、魚、野菜、サルサソースを乗せて食すが、その土地それぞれのご当地タコスの楽しみがある。日本で飲んだ後にラーメンで締めることと同じく飲んだ後のタコスはお決まりである。



写真5 タコス屋



写真6 タコス

お酒も多種多様であり、ビールは日本ではコロナビールが有名だが、それ以外にもさっぱりしたものからコクのあるクラフトビールまで様々な美味しいビールが楽しめる。

そしてメキシコと言えばテキーラであるが、こちらも色々な銘柄から様々な種類が販売されており、熟成期間に応じてブランコ（白）からレポサド、アネホと日本酒の純米、吟醸、大吟醸のようにグレードがありこれも飲み比べすると面白い。

テキーラの起源を辿ると16世紀にスペインからの入植者が酒を賄うために現地でアガベという植物を材料としたことが始まりであり、メキシコのハリスコ州にテキーラ村という場所があり、この周辺を原産とした物だけがテキーラと呼ぶことができる。



写真7 テキーラとメスカル

もう少しマニアックになると、同じ材料を使用するが工程と材料の種類を増やしたメスカルという酒があるが、こちらはアガベ（写真8）の球茎を土に埋め、長時間蒸し焼きにすることでスモーキーな風味を与えたもので、ピート強めのスコッチウイスキーに似た風味が特徴である。

数百年にわたって伝統の製法を受け継いだテキーラにメスカル、蒸留所ごとに紡がれた歴史、伝統に思いを馳せる時間も乙なものである。



写真8 テキーラ・メスカルの原料アガベ



写真10 カンクン

5. 世界遺産とメキシコ観光

海外駐在に於ける楽しみの一つは現地と周辺国への旅行である。メキシコに於ける観光産業はメキシコで3番目に大きな外資獲得源であり、メキシコ経済を牽引していると言っても過言ではない。

そのため、2020年のコロナ禍でも国境は入国制限なく常に観光客を受け入れていた。

また、メキシコは中南米への玄関口としてのポジションでもあり、年間を通じて観光客で溢れている。メキシコでは古代マヤ、アステカ文明の繁栄を残すピラミッドに始まり(写真9)、世界的なビーチリゾートとしてカリブ湾にはターコイズブルーの海が美しいカンクン(写真10)、太平洋にはアカプルコ、ロスカボスなどがあり、いずれもメキシコ観光の際は見逃せないスポットの一つである。



写真9 太陽のピラミッド上から見た月のピラミッド

メキシコシティは内陸に位置するため、これらの観光地に行くにはフライトとなるが、どこに行くにも国内線2時間余りとアクセスも良く、私もカンクンへは度々旅行し、釣りやマリンスポーツを満喫した。

更に、メキシコの人気観光スポットとしてワイナリーツアー(写真11)がある。メキシコでは14州でワインの醸造が行われているが、一番大きいバハカリフォルニア半島に位置するグアダルーペワイナリーでは国内全生産量の60%、年間約1700万本のワインを生産している。

アメリカ大陸のワインと言えばチリ、アルゼンチンが有名だが、アメリカ大陸で最古の歴史を持つのはメキシコであり16世紀にスペインからワイン醸造が伝わってから400年の歴史がある。

温暖で乾燥し昼夜の気温差のあるメキシコの気候、風土はワイン造りには最適で、カベルネソーヴィニヨン、メルロー、シラーなど種類も豊富で味も美味しくコストパフォーマンスの良いワインが沢山ある。



写真11 ワイナリー

ここグアダルーペワイナリーはワイン街道という街道沿いにいくつものワイナリーが立ち並び、各ワイナリーでは醸造工程の見学、試飲ができる。

地元産のチーズや地域の特産物などを使った料理

を振舞うレストランも沢山あり、ツアーで3か所くらい周ればご機嫌な休日を過ごすことができる。

また、ここバハカリフォルニア半島はアメリカのカリフォルニア州の南部に位置し、ここはカンクンに並び人気が高い観光地である。

左右を太平洋とカリフォルニア湾に挟まれた細長い半島で、マグロの養殖なども盛んに行われており、大トロ、生ウニ、アワビなどの極上の海産物を堪能することができる。

6. おわりに

7年間のメキシコ駐在を問題なくやり遂げることができたのはお世話になった上司先輩、駐在員、ローカ

ルスタッフ、家族の暖かいサポートがあつての結果であり、本誌を通じて感謝とお礼を申し上げたい。同時に今回培った経験と人脈は今後の業務に於いて大きな糧と自信になると確信している。このような貴重なチャンスを頂き有難う御座いました。

Compañeros, gracias a sus amables apoyos que me han brindados durante 7 años, pude cumplir el reto que tenia en Mexico exitosamente.

Era mi gran orgullo por haber trabajado con ustedes y esta experiencia sera mi gran confianza para seguir trabajar en KYB ahora en adelante.

Muchas gracias!

Saludos,

著者



川合 寛

2013年入社 営業本部グローバル
営業推進部市販第一営業部
市販統轄部製品企画課、市販営業
部、KYB Mexico DF支店駐在を
経て現職